



平成 9 年 7 月 1 8 日
日本原子力発電株式会社

東海第二発電所の手動停止の原因と対策について

当社、東海第二発電所（沸騰水型軽水炉；電気出力 1 1 0 万キロワット）は、非常用ディーゼル発電機等への燃料（軽油）貯蔵タンクの基礎周辺から軽油のにじみが確認され、同タンクの詳細点検を行うこととしました。これらの作業は非常用ディーゼル発電機の機能に影響を及ぼすことから、7 月 1 2 日 2 3 時 0 0 分に原子炉を手動停止しました。（平成 9 年 7 月 1 1 日発表済）

点検の結果、当該タンク底板に微小な孔（直径約 1 mm）が 1 か所確認されました。タンク底板を取り外し調査を行ったところ、同タンク底板下部に浸入した雨水により、同底板が腐食・貫通したものと推定されます。このため、タンク底板の取替えを行うとともに、タンク底板下部に雨水が浸入し難く、防水性の高い構造に変更することとしました。

今後、これらの対策を行い、当該タンクの健全性を確認した後、原子炉の運転を再開する予定です。また、資源エネルギー庁による国際原子力事象評価尺度（INES）暫定評価では、レベル 0 とされています。

以上